

# 技術基準検討WGの活動状況について

平成19年3月20日

技術部会

技術基準検討WG

# 技術基準検討WG活動概況

## 0AB～J\_IP電話を中心とした検討

### ➤ 第1回WG会合 平成18年1月27日

-WGとしての初会合。検討課題の議論-

<<参考:総務省様の動き>>

第4回技術検討作業班 平成18年2月16日

### ➤ 第2回WG会合 3月24日

-各SWGからの検討状況報告及び議論-

第5回技術検討作業班 3月29日

### ➤ 第3回WG会合 6月13日

-中間報告審議-

第2回IPネットワーク設備委員会 4月17日

### ➤ 第4回WG会合 10月13日

-最終報告書(案)審議-

第6回技術検討作業班 6月27日

第3回IPネットワーク設備委員会 8月29日

第7回技術検討作業班 9月21日

<<最終報告書公表 10月20日>>

第8回技術検討作業班 10月31日

第9回技術検討作業班 11月21日

第4回IPネットワーク設備委員会 12月4日

<<パブコメ>>

第5回IPネットワーク設備委員会 平成19年1月17日

「0AB～J番号を使用するIP電話の基本的事項に関する技術的条件」答申 1月24日

- ✓品質・機能SWG会合 計 9回開催
- ✓安全性・信頼性SWG会合 計 12回開催
- ✓相互接続・運用性SWG会合 計 11回開催
- ✓次世代IPネットワークSWG会合 計 13回開催
- ✓電気通信事業法勉強会(講師:総務省様)

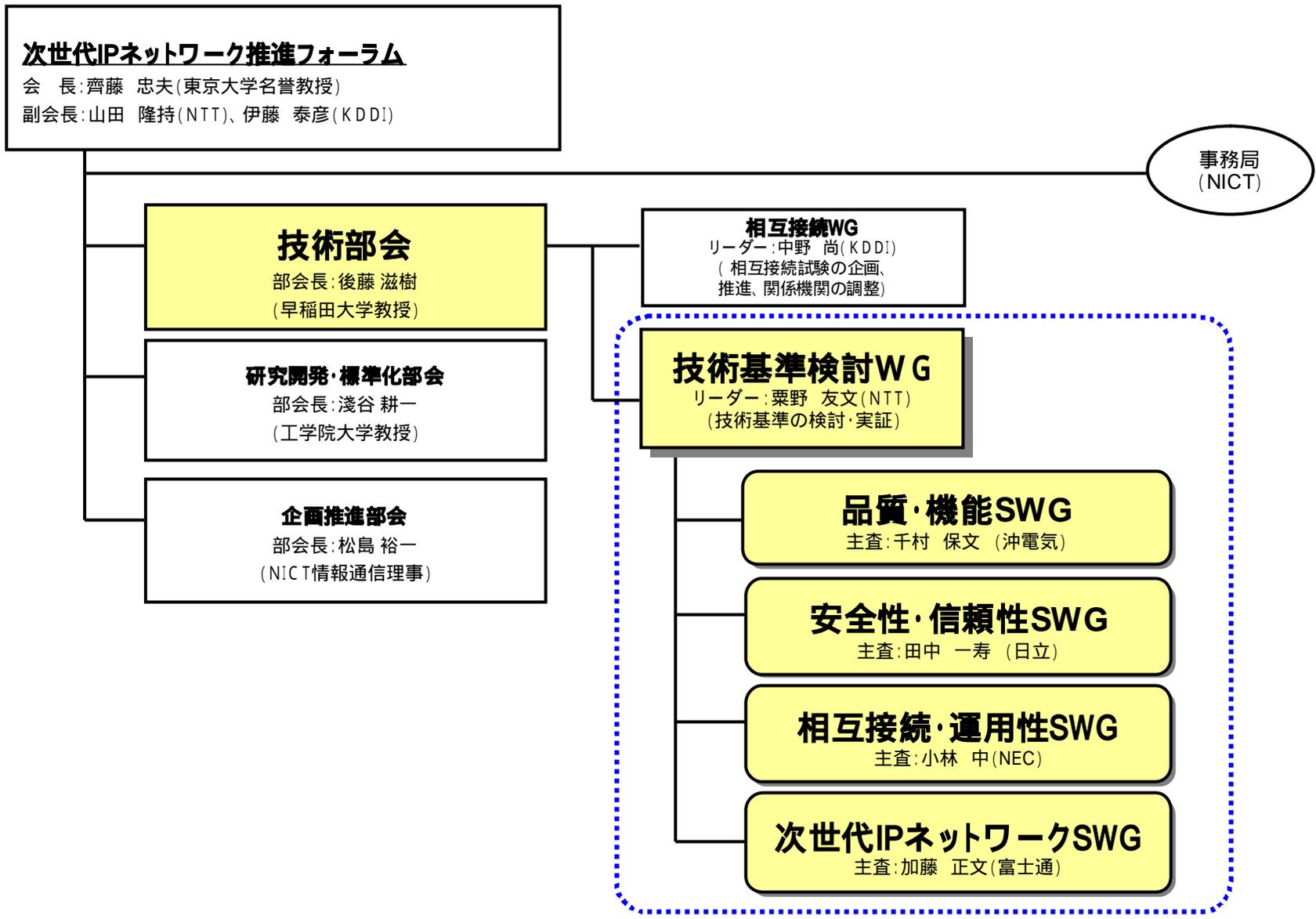
## 今後の検討に向けた新SWG体制の構築

### ➤ 第5回WG会合 平成19年2月14日

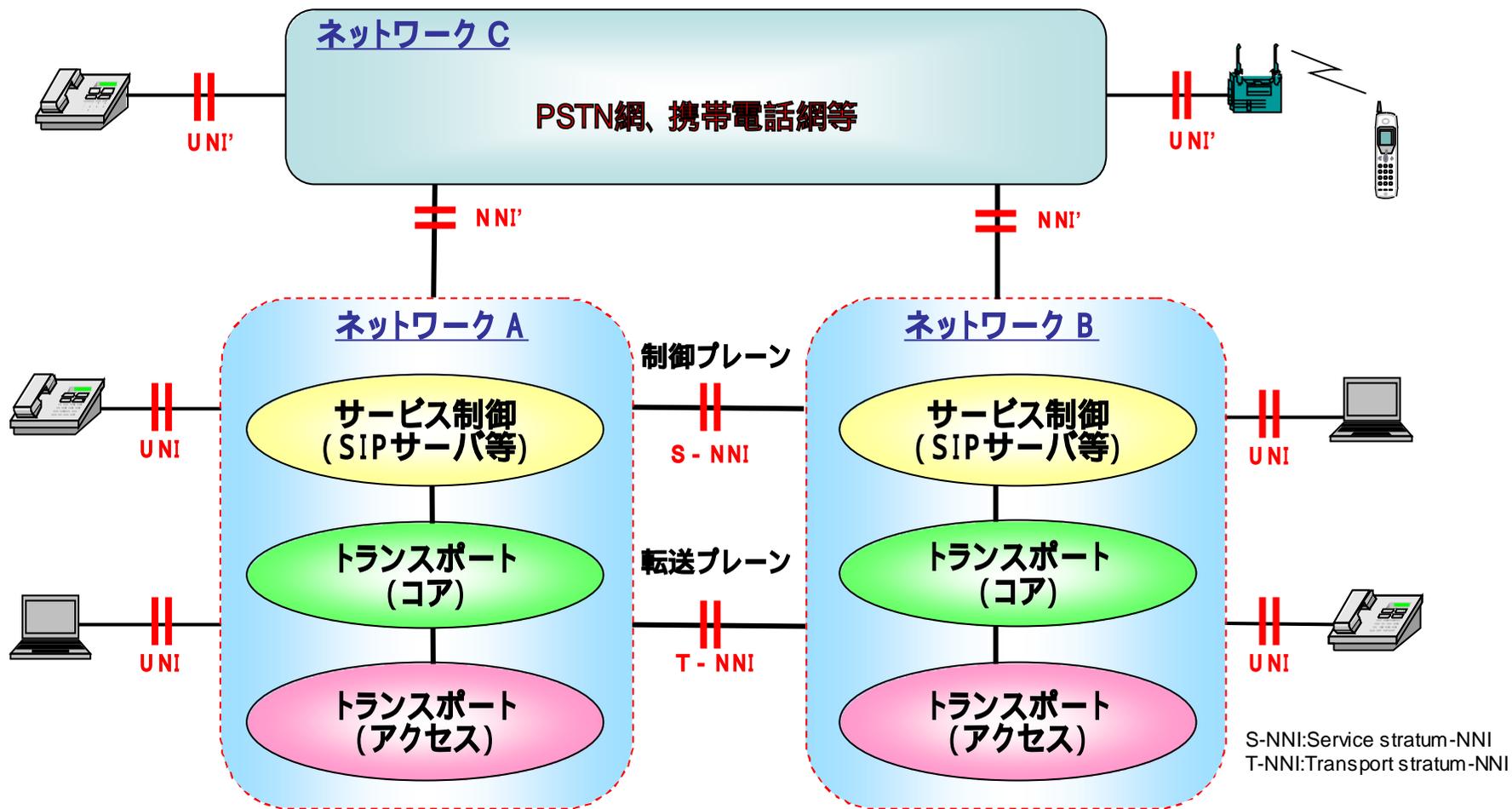
-新たなSWG体制の構築-

技術基準検討WGの活動状況について  
～0 A B～J\_IP電話を中心とした検討～

# 検討体制



# 検討モデル



\* 点線部分はあくまでも一つのネットワーク構成を表しているものであって、単一の電気通信事業者で構成されていることを意味するものではない。



# 機能に関する検討結果

## (新たな技術的条件として望ましいもの)

### 利用者からの無効呼抑止のために必要な機能

-0 AB~J\_IP電話端末は、発信時に網が輻輳している旨のエラーレスポンス等の通知を受けた場合は、再呼を抑止するために利用者へその旨を何らかの方法で通知する機能を有すること-

### 一斉発呼(登録)の防止

-網が端末からの登録を受付できない場合に、網から再登録要求の送信タイミングについて指示があった場合は、端末はその指示に従い送信タイミングを調整し、また、網から再登録要求の送信タイミングについて指示が無い場合は、端末が送信タイミングを調整し、再登録要求を行う機能を有すること-

### 網と端末との遠隔切り分け機能

-端末は、網からのIPレイヤにおける疎通確認信号に対する応答信号を返送する機能を有すること-

### サービス品質測定機能

-端末は、End-to-endサービス品質情報を取得し、必要に応じネットワークへその情報を転送できる機能を有すること-

## (現行の技術的条件を踏襲すべきもの)

### 輻輳発生時の重要通信の疎通確保

### 緊急通報

\* 詳細は平成18年10月技術基準検討WG報告書 参照のこと

# 安全性・信頼性に関する検討結果

## (新たな技術的条件として望ましいもの)

### 発信者番号偽装対策

-電気通信事業者は、0AB～J\_IP電話端末からの発信者番号の正当性の検証を行い、正当でない発信者番号が検出された場合は、発信者番号を無効にする等の措置を講ずること-

### 自動再発信を行う端末の発信回数制限

-0AB～J\_IP電話端末は、アナログ電話端末等と同様に、自動再発信を行なう場合(自動再発信の回数が十五回以内の場合を除く)、その回数は最初の発信から三分間に二回以内(最初の発信から三分を超えて行なわれる発信は別の発信とみなす)とする機能を具備すること-

### 端末のソフトウェア/ファームウェア更新機能

-0AB～J\_IP電話端末は、その端末のソフトウェアに脆弱性が発見された場合は、それを修復するための更新機能を具備すること-

### ユーザネットワーク及び相互接続網との間の不正アクセス等の流入/流出の対策

-不正アクセスに対する緊急遮断実施のための技術的な方法については、事業者の網設備やサービスの条件により多岐にわたると考えられるため特に規定するものではないが、緊急遮断を行えるための基準等を明示するようなガイドラインの策定などが望ましい-

## (現行の技術的条件を踏襲すべきもの)

事業者間で重要通信を優先的に取り扱うためのルール等

様々な異常輻輳から網を守るために必要な機能要件

発信者情報や位置情報、その他利用者に係わる情報の保護対策

通信の秘密を保護する対策

IPネットワーク上での障害箇所の特定

IPネットワーク上で、設備の損壊・故障があった場合の予備機器への切り替えや、伝送路の複数経路化の在り方

\* 詳細は平成18年10月技術基準検討WG報告書 参照のこと

# 相互接続・運用性に関する検討結果

## (TTC標準化として望ましいもの)

トランスポートレイヤプロトコル

接続先事業者の識別方法

IPレイヤプロトコル

符号則・ベアラ規定

SIP信号情報要素の拡張について

オプションサービス範囲

ネットワーク端末間のインタフェース規定

## (現行の技術的条件を踏襲すべきもの)

接続品質規定 <品質・機能の検討結果に同じ>

重要通信の範囲及びその優先的取り扱い <品質・機能の検討結果に同じ>

不正利用、不正アクセス(成りすまし) / SIP脆弱性攻撃防止 <安全性・信頼性の検討結果に同じ>

\* 詳細は平成18年10月技術基準検討WG報告書 参照のこと

# 次世代IPネットワークに関する検討結果

---

## (FMC(汎用モビリティ)サービス)

アクセス手段の変化を考慮した通信品質確保

## (コンテンツ配信サービス)

基本配信モデル

品質条件

輻輳への対応

コンテンツの著作権管理

## (電子メール)

迷惑メール対策

## (共通的事項)

新たな重要通信・緊急通信の可能性について

端末網との接続条件について

技術基準検討WGの活動状況について  
~今後の検討に向けた新SWG体制の構築~

# 今後の検討課題

平成19年1月24日の情報通信審議会 情報通信技術分科会において、「0AB～J番号を使用するIP電話の基本的事項に関する技術的条件」についての一部答申と併せて、今後の検討課題が以下の通り示されている。

- 0AB～J番号を使用するIP電話の基本的事項以外のIP電話に関する検討課題
- 新たなサービス等に関する検討課題
  - (1) コンテンツ配信サービスのネットワークモデルの具現化とともに、品質条件等の品質・機能の確保、ふくそう対応等の安全性・信頼性の確保、相互接続・運用性の確保の在り方等
  - (2) 迷惑メールの今後の進化やIPネットワークの発展性を考慮し、ネットワークとメール配送機能の連携による迷惑メールの抑止手段の可能性等
  - (3) 固定・移動シームレスサービスについて、アクセス手段の変化を考慮した最適な通信品質の確保の在り方等
  - (4) 新たな重要通信、緊急通報の確保方法として、IPネットワークにおける電話以外の多様な通信サービスに関して、災害時や緊急時における重要通信・緊急通報としての新たな利用の可能性
  - (5) ホームネットワーク等の端末側に多様なサービス・機能を有する端末網が発展することが想定されるが、こうした端末網の品質の基準の考え方や、ネットワークから端末までの相互接続性の確保、ネットワークと端末の機能分担・連携の在り方等

情報通信審議会 情報通信技術分科会(第46回)(平成19年1月24日開催)の資料46-2-2  
「情報通信審議会 情報通信技術分科会 IPネットワーク設備委員会 報告書」第7章より抜粋

# 技術基準検討WGの今後の検討体制

前項の課題を検討するため、平成19年2月14日の第5回技術基準検討WGにおいて、これまでの4つのSWGを廃し、以下の新たなSWG体制を構築することとした。

